

## 審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 9 回松阪市過疎地域の活性化を考える会
2. 開 催 日 時	令和 2 年 2 月 10 日(月) 午後 7 時～午後 9 時 30 分
3. 開 催 場 所	飯南地域振興局 2 階第 1 会議室
4. 出席者氏名	(委 員) ◎佐々木会長、○寺脇副会長、木下会員、久保会員、堀川会員、廣本会員 (事務局) 飯南地域振興局 地域振興課 堀川課長、森本主幹、飯高地域振興局 地域振興課 高木参事、清川主査 オブザーバ 丸川竜也、武村蛍佑、横山陽子
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	4 人
7. 担 当	松阪市企画振興部 飯南地域振興局 地域振興課 森本 TFL 0598-32-2511 FAX 0598-32-3771 e-mail chishin.nan@city.matsusaka.mie.jp

### 協議事項

1. 会長あいさつ
2. これまでの振り返り
3. 講演：『デザイナーからみた過疎対策』
4. 過疎対策の具体的な事業展開について
5. その他

## 第9回松阪市過疎地域の活性化を考える会 議事録

日 時 令和2年2月10日(月) 午後7時～午後9時30分  
場 所 飯南地域振興局2階第1会議室

1. 会長あいさつ
2. これまでの振り返り(事務局から)
3. 講演:「デザイナーからみた過疎対策」講師:丸川竜也氏 (WIPE代表)
4. 過疎対策の具体的な事業展開について(前回の意見から)

出席者 佐々木 幸太郎(会長:松阪香肌商工会)  
寺脇 政彦(副会長:住民協議会推薦)  
堀川 由美(住民協議会推薦)  
久保 一也(住民協議会推薦)  
木下 幸一(住民協議会推薦)  
廣本 知律(飯高地域振興局)

オブザーバ 丸川竜也さん(WIPE代表)、武村蛍佑さん  
横山陽子さん(松阪市地域おこし協力隊)

傍聴者数 4人

### 内 容

#### 1. あいさつ

会長 本会も3年目になって、だんだんと言うべきことが明確になってきたように思う。

今日は、オブザーバとして、WIPE代表でデザイナーの丸川さんにお越しいただいている。自分たちとは違う目線でアドバイスをいただくことで今後の展開につなげていきたい。

(会員によるチェックインスピーチ)

#### 2. これまでの振り返り(事務局から)

事務局より、別紙、『これまでの振り返り』により説明。

#### 3. 講演:「デザイナーからみた過疎対策」

講師:丸川竜也氏 (WIPE代表)

(概要)

・飯南飯高地域とは、これまでに様々な形でかかわらせていただき身近なとこ

ろだと感じている。

- ・会社名の『WIPE（ワイプ）』は、『拭き取る』という意味がある。  
『埃をかぶって埋もれてしまい見えにくくなっているもの』＝（地域の特色・魅力など）を、デザインという手法によって、『埃を払ってあげることにより正しく見せる』＝『地域の特色・魅力などをうまく活かす』取り組みを行っている。
- ・デザインの本質は、問題を正しく見つけ（問題提起）、問題を正しく解決する（問題解決）ことにある。これが、デザインの本来的意味である。  
デザインの視点、デザイン思考により、『課題、問題』の『解決策』を考えることがデザイナーの役割。（デザインは装飾することだけではない）
- ・デザインは、『逆算志向』。『どういう状況をめざすのか』というゴールを決めて、自らゴールを目指していただけるように『仕向ける』ことにある。
- ・ゴールを目指すためには、思い込みを捨てることが大切。
- ・みなさんが行っていることは、『まち』＝『過疎地域』を、『つくる』＝『デザインする』こと。デザインは、デザイナーのものだけではなく、全ての人やこと、ものに通じる『共通項』だという認識をもっている。
- ・商品や地域の魅力を『つくる』だけではなく、それを『売る（活用する）』ことを考え、さらにその先にある、『醸す（雰囲気づくり）』ところまでを一連のものとして考えていく必要がある。
- ・地方の弱みは、『そこにしかないもの・こと』。視点を変えると、それは強みにもなる。
- ・大切なのは、地域を何とかしたいと思って取り組みを行っている内部＝『みなさんや、地域』が盛り上がっていること。人だかりをみると、何か気になるように、盛り上がっていると、周りは気になって自然に注目してくれる。

（講演終了、5分間休憩）

（講演を聞いて会員の感想）

会員 『ゴールを決める』ということであったが、何かのイベントを行うとき、「人が集まらなかったらどうしよう」という不安が先に立つ。

例えば、婚活事業の場合、どういう言葉がけ（アプローチ）をしたら人は集まってくれるのか。

講師 婚活の場合、人を集めるには『チラシなど』＝『広報』が接点になるべきもので、重要な要素になる。本来ならこの部分は経費を削らずプロに任せるなどにより、情報を効果的に、届けたい人に届ける方法を工夫することが重要。

会長 ゴールの設定とはどういうことになるのか。

講師 『何がどうなったらハッピーになるのか』ということを考えていくこと。商品の場合なら、『売れること』でとどまらず、その先にある『人の笑顔をつくりたい』というゴールがきちんと見えているかどうかということ。

会員 『売れた』先を見ることが必要ということか。

講師 うまくできる人は、それがきちんと見えている。

自然・観光、この地域なら何がポイントなのか考えること。例えば『小津安二郎』なら、世界中にファンがいて、それだけでも人は集められるだけの魅力はあり、素材は素晴らしいものがある。どうすればうまく伝えられるのか。今あるものをきちんと見せること。伝え方をうまくすることが大切。

会員 デザインの奥深さを感じた。空家をどうデザインするといいのかを考えているが、どのように進めていけばいいのかがよくわからない。

講師 ターゲットが広すぎるなどポイントがよくわからないときは具体的に決めることで、ポイントが見えやすくなる。時には、とがったポイント（特徴）をつくり、それを起爆剤にすると広がっていくこともある。

事務局 講師の話を聞いてワクワクするが、自分たちが地域の人と話すと、平均的なところに収まって中途半端になり、面白くないということがある。

講師 自分が面白いと思ったものを伝えるといい。コミュニティデザインは行政で決めるのではなく、地域の人たちに決めてもらうようにもっていくことが大切。その過程では、いろいろな意見を出していただくともまとまっていく。

また、まちづくりは行政が行うのではなく、まちをよくしていこうとする人たちをサポートすることで、最終的には住んでいる人が決めていくこと。面白いことが『ない』のではなく、『見つけられない』だけなのかもしれない。

自分たち（地域・行政）が楽しむことが一番で、その熱量が大切。そのことで他に伝わることもある。

地域と話すとき、『変える』という表現を『アップデートとする』とい

う表現に変えただけで、その後うまく進んだ例もある。

会員 日頃からプラス思考で、マイナス的なことは言わないでおこうと心がけているが、先般、移住を希望して東京から来られたコーヒー豆焙煎職人の方がしばらく飯高に住んで空家を探しておられた。

最終的には、多気町に移住することになったようだが、このことに関して行政のつながりが薄かったように思い残念。

講師 日々に慣れると気づかなくなることもあるので、違和感に気づくことができる感性を持つことが大切。

自分たちにとっていいものだけでは強みにならない。どちらかの視点だけではなく、マイナスのことを反転させていくことが大切。

『混ぜる』のではなく『和える』という感覚で。

オブザーバ 空家の活用についての話の中で、移住して地域とうまくやっていけるかどうか不安になることがある。

講師 移住する人にとっては不安なことはある。『急に距離を詰められても』と、戸惑うこともあるだろう。

そうならないように、『緩い移住』にとりくんでいる地域もある。そのことにより移住する人が住みやすい環境をつくることも大切。

外部（地域の外）からのイメージは、地域に住んでいる人は気づかないかもしれないが、真実だったりすることもある。

会員 本会もあと一年あるが、今日の講演を行政もきちんと咀嚼して今後に生かしていきたい。

会長 『緩い移住』について、移住された方が集える場所はやはり大切なのか。

講師 『移住された方が集える場所』をつくることは、地域としては、『怖さ』があると思う。しかし、移住された方たちにとってはそのような場所があることは大切だと思う。

『我慢が前提』の移住は続かない。地域としても『我慢しなくていい環境』をつくることも大切。

（講演・質疑修了）

4. 過疎対策の具体的な事業展開について（前回の意見から）

事務局 時間のこともあるため、4の項目については、次の会議の中で深めていくことにしていきたい。（会員了承）

(1) 観光交流人口の増加を図る施策

- ・香肌峡の魅力・情報発信、PRの強化
- ・ビジターセンター機能
- ・食の活用（失われていく伝統食の継承等）

(2) 地場産業の活性化を図る施策

- ・事業承継（商工会との連携）

(3) 移住促進を図る施策

- ・移住相談センターの開設（移住者を迎い入れる場、コミュニティの場づくり）
- ・空家を資源と捉えた活用
- ・田舎暮らしの魅力の見直し、楽しみ方の発信  
（自然と触れ合う様々な体験、たき火、薪ストーブ等）

(4) その他過疎地域の活性化を図る施策

- ・コミュニティの核となる小学校の存続
- ・外部で活躍する地域出身者の発掘、活用
- ・飯南高校との連携。県外生徒の受入れ、フィールドワーク、課題探究活動の支援等

5. その他

（事務局より説明）

- ・空家活用に関するフィールドワーク 2月16日（日）有間野地区
- ・飯南高校道の駅コラボ 2月16日（日）茶倉駅
- ・田舎暮らし体験 3月7日（土）つつじの里 荒滝にて（リース作り他）  
3月28日（土）自然養鶏農園 亀成園にて
- ・婚活イベント 3月14日（土）リバーサイド茶倉にて
- ・香肌小学校親子山村留学現地説明会 3月20日 香肌小ほか
- ・ジャパンエコトラック宮川・香肌峡ルート サイクルグルメツアー  
3月21日（土）飯高駅スタートゴール

・次回開催日                   月                   旬頃        (飯高地域振興局にて)

事務局     次は、4月～5月ごろを予定している。協議の内容は、次期過疎計画へも反映させていきたい。

          その次は、8月頃に開催予定。これで意見集約を行いたいと考えている。

(終わりのあいさつ)

副会長     みなさんお疲れ様でした。

          松阪市の市政功労者の高瀬英雄さんは私の恩師だが、81歳を過ぎてもなお松浦武四郎についての勉強をしておられる。

          先日、地域のグループの取り組みで、富士見ヶ原にさざんかを植える活動を行った。本会も残り1年になったが、地域が元気になるよう、今後の大きな変化を期待して自分も頑張っていきたい。

(21時30分終了)

## これまでの振り返り

### 【平成 26 年度】

空家バンク制度開始 6 年目を迎える

成果：51 世帯、92 名移住。改修補助金 21 件、事業費 2,452 万円。  
登録物件残数 27 戸（11 月末現在）…空家の確保が大きな課題

### 【平成 29 年 11 月】

松阪市過疎地域の活性化を考える会設置（任期：令和 3 年 3 月まで）

これまで 8 回（年 3 回）の会議を開催。

視察：豊田市おいでんさんそんセンター、オフィスキャンプ東吉野等  
セミナー：

移住（名古屋大学高野教授、全国古民家再生協会河野氏・小林氏）

地域資源活用（モンベル竹山常務、㈱紀伊長島長井代表ほか）

飯南高校（大正大学浦崎教授）

### 【予算化・事業化できたもの（平成 30 年度～）】

#### ●田舎暮らし交流移住促進事業（ソフト事業）

移住関係

地域おこし協力隊採用、田舎暮らし体験、お試し住宅（内 1 世帯飯南へ移住）、仕事バンク（商工会と連携）、地域活性化セミナー、東京・大阪等での相談会参加、飯高茶屋での臨時相談会開催

観光交流関係

サイクリング・自然体験イベント（カヌー、山登り）、香肌峡をPRするHP・パンフ作成、関西圏への展開（東吉野村、宇陀市との連携協定）

#### ●過疎地域魅力アップ整備事業（ハード整備）

宮の谷溪谷登山道、富士見ヶ原、高見山（舟戸ルート）・局ヶ岳・烏岳登山道整備（標識等）

#### ●道の駅「飯高駅」整備

芝生広場へ大型遊具・展望台を設置。新たな温泉の掘削等。

※飯南高校の活性化（文科省の委託事業、県外募集（下宿先確保）、CSに向けての動き）

※NPO法人 i sierra、松阪香肌商工会等関係機関との連携

※香肌小親子山村留学の開始（R 1. 6～）

## 【令和2年度からの新たな取組み（重点事業）】

### 移住関係

まつさか移住交流センターを開設（土・日も対応。飯南産業文化センターへ設置）。地域おこし協力隊を1名増員

新規：香肌の仕事体験イベント（商工会と連携）

今後は、地域を巻き込んだ官民連携の「中間支援組織」の体制づくりを目指していく。

### 観光交流関係

#### ●「まつさか香肌イレブン」プロジェクト（2ケ年）

高見山、三峰山、白猪山など、香肌峡エリアにある山々と豊かな自然を多くの登山者に楽しんでもらえるよう、「まつさか香肌イレブン」と称した11の山を選定し、縦走ルート・周回ルート等を調査・整備。登山者の安全と利便性、満足度及び知名度の向上を図る。

（令和3年度に「まつさか香肌イレブン」登山マップを作成予定）

#### ●香肌峡PR用看板の設置（3基）

高見山地、台高山脈や宮の谷溪谷、櫛田川の清流、深蒸し煎茶を育む茶園、日本を代表する松阪牛の肥育地「深野の棚田」（棚田100選）など、県立自然公園に指定されている「香肌峡」の魅力を発信するPR看板（飯高駅周辺1基）及びマップ看板（飯高駅、茶倉駅の既存をリニューアル。2基）を設置する。

※その他従来からの事業は継続して実施。